

東京理科大学と長万部町による長万部地方創生推進事業	取組開始時期	2017年11月 (会社設立)	取組の カテゴリ	産業振興・企業誘致
---------------------------	---------------	--------------------	---------------------	-----------

1. 団体名	東京理科大学イノベーション・キャピタル株式会社	2. 連携先の団体	長万部町、長万部アグリ株式会社、東京理科大学、東京理科大学インベストメント・マネジメント株式会社 など
---------------	-------------------------	------------------	---

3. 取組目的	人口急減・超高齢化と長万部が直面する大きな課題に長万部町と東京理科大学が一体となって取組み、長万部の特徴を活かした自律的で持続可能な社会の創生を目指す	4. 関連するゴール	   
----------------	---	-------------------	---

5. 取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

■ 取組内容の詳細

東京理科大学と長万部町が連携した地方創生事業の一環として長万部アグリ株式会社を設立（2017年11月）。長万部アグリで栽培された農作物は、東京理科大学が主に出資するベンチャーファンドの出資先企業であるプラントライフシステムズが有する先進的な農業システム(特許出願中、PTC国際出願済み)を活用して作られている。

土のかわりに長万部特産のホタテ貝殻や栄養豊富な貝殻を砕いたアルカリ性の砂を使う最新の栽培方法で、健康状態に合わせた最適な栄養素、水、二酸化炭素、光をバランスよく与えることで、野菜や果物本来の味を感じる濃厚な味と、豊富な栄養価の両立を実現。

再生エネルギーを活用したハウス栽培で、本事業スタート時には農業経験の無かった人材が従事しているものの、センサーを活用した環境制御・灌水制御システムにより、栽培開始年度から極めて高い品質のトマト栽培を実現。

現在、この取り組みで栽培された「エンリッチミニトマト」は、ECサイトを通じての購入が可能、長万部町ふるさと納税での返礼品としても採用されている。2020年2月には、「一般財団法人 格付けジャパン研究機構」による「データプレミアム No. 1 格付け認証」において、国内の代表的な品種やブランドミニトマトの中で、栄養素や価格を総合的に評価した結果、「エンリッチミニトマト」が第1位に選ばれた。

■ 今後の方向性

「長万部型先進的アグリビジネスの確立」:

長万部の農業に、東京理科大学の技術、地域の再生可能エネルギーを組み合わせ、長万部町の問題点である、農業衰退（担い手・農業基盤の不足）の改善と、農業基盤の確立、競争力の付加を目指す。

取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

「エンリッチミニトマト」普及により、すべての人々の健康増進を目指し、その生産プロセスにおいては生産拠点の雇用を創出し、持続可能な再生エネルギーを活用した生産を行うことで地域社会に貢献する。

ステークホルダーとの連携

「観光業」「農林業」「林業」などのリソースを持つ長万部町と、東京理科大学の技術、事業パートナーが協力。

モデル性・波及性

「誰でもおいしく作れる農法」でのトマト栽培を実現できる事例。農業の産業化、新規雇用創出、定住人口の増加、地域経済の活性化モデルを確立する。

自由記述欄

参考①

マイナビ農業「エンリッチミニトマト」紹介記事

https://agri.mynavi.jp/2020_10_09_135634/

参考②

ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」商品ページ

<https://www.furusato-tax.jp/product/detail/01347/4517902>

ECサイトでの販売事例

<https://shop.h-scc.jp/products/detail/153>

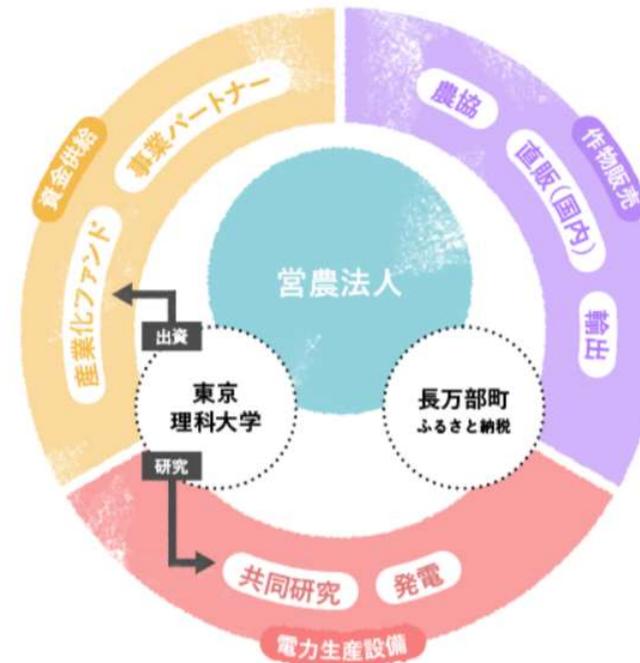
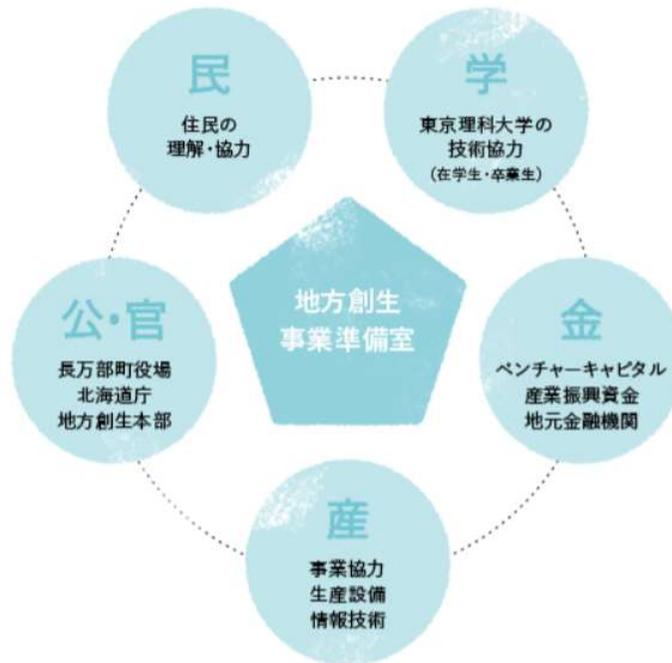
参考③

長万部町 地方創生推進事業ホームページ

<http://osyamanbe.jp/>



各種ECサイトで1kg 約2,500円程度で販売。
糖度は9～11度と一般的なミニトマト（6度前後）を大きく上回る。



各ステークホルダーとの連携により、本事業を運営
(長万部町 地方創生推進事業ホームページより抜粋)